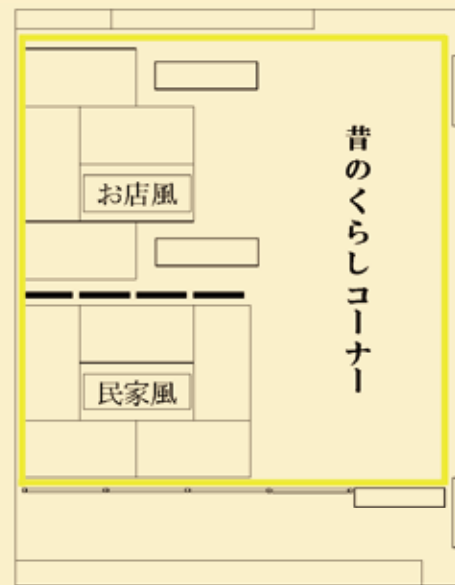
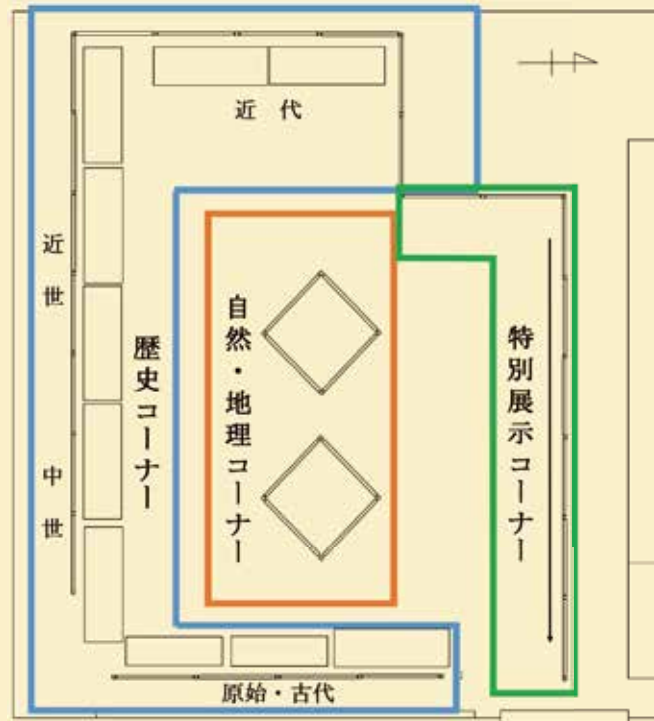


展示室レイアウト



アクセス

所 在: 旧小見野小学校 2 階 (川島町大字谷中99)

連絡先: 049-297-0076

開 室 日: 毎週火、水、金、土曜日

開室時間: 9 時30分から16時30分まで

※入館は16時まで

休 室 日: 毎週月、木、日曜日、年末年始

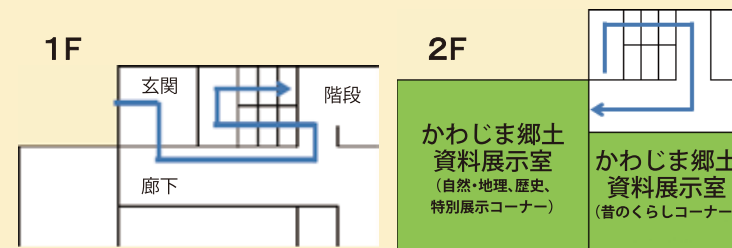
入 館 料: 無料

【公共交通機関でお越しの場合】

東武東上線川越駅より、東武バス「鴻巣駅西口」行き乗車
「小見野公民館前」下車

【お車でお越しの場合】

首都圏中央連絡自動車道川島インターチェンジより15分



展示室について

川島町は、四方を川で囲まれ、肥沃な土地を利用した水田耕作を中心に発展してきました。

川島町の歴史や自然・地理、これまでに集めてきた貴重な土器、町民の方から寄贈していただいた民具(生活用品)などに触れて頂くため、令和5年4月にかわじま郷土資料展示室を旧小見野小学校に開設しました。

この郷土資料展示室が、町の歴史を今に伝えるとともに、地域の皆様の学習の場としてお役に立てれば幸いです。

令和6年12月

川島町教育委員会

かわじま郷土資料展示室



川島町教育委員会

歴史

～原始・古代 馬形埴輪(古墳時代)～



稲荷塚古墳から出土した馬形埴輪は、古墳時代の様子を知るための大切な資料です。お墓の周り

の埴輪は、亡くなった人が生前に持っていた財力、または権力を表しているとされます。そのため、当時貴重であった「馬」を持つ有力者がこの地にいたと考えられます。

～中世 応永六年銘板碑(室町時代)～



板碑は、緑泥片岩などを板状に加工して作られた一種の供養塔で、鎌倉時代以降、多く作られるようになります。

町では、700基以上が報告されています。本資料は、1399(応永6)年の年号が刻まれ、中央に「阿弥陀如来」を意味する梵字が彫られています。

～近世 伊草の渡し(江戸時代)～



19世紀前半に江戸幕府によって編纂された『新編武蔵風土記稿』には、伊草の渡しの様子として川を

越えて人々が往来する様子が絵図に描かれています。現在もこの場所は、国道が通るなど町にとって、交通の要所です。

～近代 算額(明治時代)～



算額は、江戸時代に流行した和算の問題を記した木製の額です。良い問題ができると神社やお寺に奉納し、多くの人に問題に挑戦してもらいました。算額は、表に問題があり、裏側に回答が書かれています。

～現代 町制施行記念式典(1972年)～



1972(昭和47)年11月3日に「川島町」は誕生しました。記念式典では、石田正平初代町長から「明るく豊かな田園都市」の建設が宣言されました。

～現代 町制施行50周年記念ロゴマーク制定～



2021(令和3)年11月3日に川島町は町制施行から50周年を迎えました。これを記念して制定されたロゴマークには、町制が始まった頃と変わらない豊かな恵みを表す稲穂が描かれています。

自然・地理

～特徴的な地形「自然堤防」「耕地整理」～



町の地形の特徴は、かつての川の流路跡を伝える自然堤防と碁盤の目のような区画の水田です。住宅地と季節ごとに変化する水田は見事なコントラストを描いてます。

～洪水への備え① 船が伝える被害の記憶～



1910(明治43)年に起きた大洪水は、この地に住む人々の防災への意識を変えました。この時の経験から洪水時に避難できるように船を作り、100年以上たった今も八ツ保地区の薬師堂に保管されています。

～洪水への備え② 命と財産を守る水塚～



町の四方を流れている川は、豊かな水を湛える一方で、水害もたびたび起こしました。そのため、人々は、「水塚」という土を高く盛った塚の上に蔵を築き、いざという時には、避難できるようにしました。

昔の暮らし

～憧れだった家電三種の神器 白黒テレビ～



家電三種の神器(白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫)は、戦後の復興期に人々のあこがれの的でした。中でも白黒テレビは、最も早く家庭に普及しました。

～水辺の生活 和船～



周囲を川で囲まれた町で、災害への備えの外、運搬や漁労等生活の中で和船が使われてきました。

文化財紹介動画



町では、建造物、自然・地理、祭囃子・獅子舞など様々な文化財を紹介する動画を公開しています。



生涯学習課チャンネル